

# どうしていま、「さんきゅうパパ」なの？

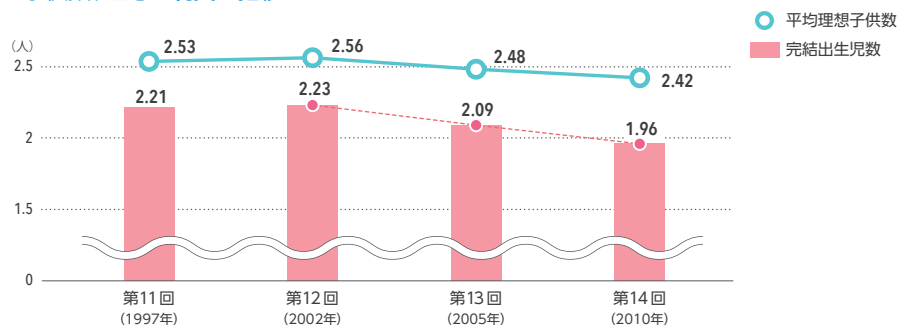


晩産化や共働き夫婦の増加などによるライフスタイルの変化と共に、  
出産や子育てが多様化しつつあります。  
妊娠・出産・子育てに際して、パパができることを考えてみましょう。

## 理想の子供数と現実のひらき

夫婦の理想の子供数と、実際の子供数の差が広がっています。完結出生児数（夫婦の最終的な平均子供数）は2人以上を維持してきましたが、2010年の調査で初めて2人を切りました。一方、夫婦に尋ねた理想的な子供の数は、低下しているものの、一定水準を維持しています。

### ■子供数、理想と現実の推移

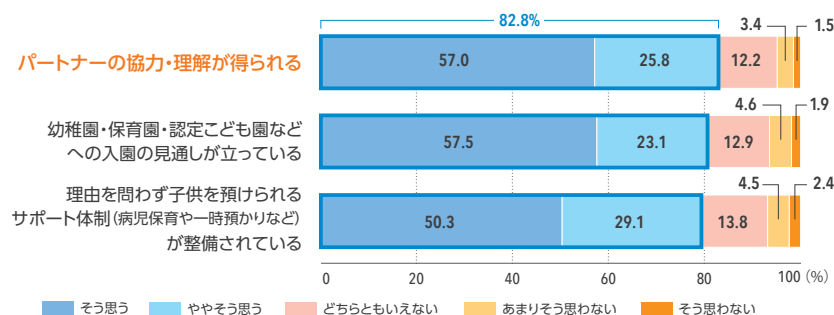


資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2010年）より内閣府作成。注：完結出生児数の対象：結婚継続期間15～19年の初婚どうしの夫婦（出生子供数不詳を除く）。平均理想子供数の対象：妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。設問：あなた方ご夫婦にとって理想的な子供の数は何人ですか。各調査の年は調査を実施した年である。

## ママたちは、パパの協力・理解を必要としている

7歳未満の子供を持つ既婚女性に「安心して子供を持つために必要な支援・環境」について聞いてみると、パートナーの協力・理解が得られることを挙げる人（「そう思う」「ややそう思う」の合計）が最も多くなっています。

### ■安心して希望どおり子供を持てるようになると思う支援・環境

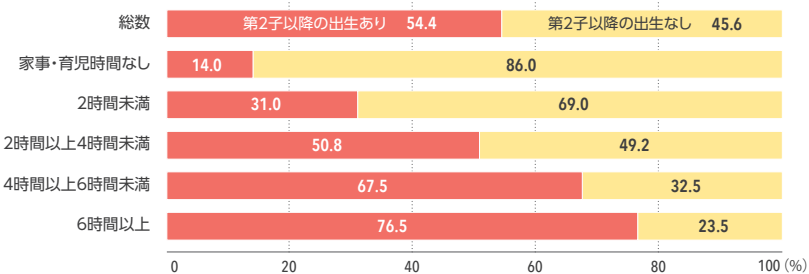


資料：内閣府「少子化社会対策の大綱に関するインターネット調査」（平成26年度）対象：20～44歳の末子が7歳未満の子供を持つ既婚女性のうち、さらに子供を持ちたい希望あり、もしくは現在妊娠中と答えた方のうち、子供を持つことへの不安について「感じている」、「やや感じている」と答えた方、581名。15項目中、「そう思う」+「ややそう思う」の上位3項目。設問：あなたは、次のような支援・環境があれば、安心して希望どおり子供を持てるようになると思いますか。

## 2人目以降の子供の出生には、パパの家事・育児が影響

夫が休日に行う家事や育児の時間と、第2子以降の出生割合には大きな関係性がみられます。夫が家事・育児を長時間している夫婦の方が、第2子以降の誕生する割合が高いことがわかります。

### ■子供がいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみたこの10年間の第2子以降の出生の状況

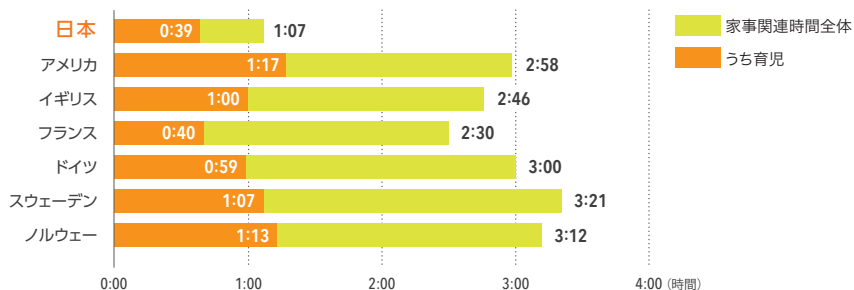


資料：厚生労働省「第11回21世紀成人世代調査」（調査年月：2012年11月）より内閣府作成。注：1.集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。①第1回調査から第11回調査まで両方が回答した夫婦 ②第1回調査時に独身で第10回調査までの間に結婚し、結婚後第11回調査まで両方が回答した夫婦 ③出生前調査時に、子供1人以上ありの夫婦 2.家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第10回調査時の状況である。3.10年間で2人以上以上出生ありの場合は、末子について計上している。4.総数には、家事・育児時間不詳を含む。

## 日本の男性の家事・育児時間は少ない

6歳未満の子供を持つ夫の子育てや家事に費やす時間をみると、1日当たり67分となっており、先進国中最低の水準にとどまっています。

### ■6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連時間（1日当たり・国際比較）



資料：Eurostat「How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men」（2004）、Bureau of Labor Statistics of the U.S.「American Time Use Survey」（2013）及び総務省「社会生活基本調査」（平成23年）より内閣府作成。注：日本の数値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間（週全体平均）である。